

伯耆の国 基本理念  
「個々の生活観を尊重し、  
豊かな心と安心・信頼の  
地域づくりを目指して」

# けやき



**福祉車両を贈呈していただきました。**



一般財団法人「中国地方郵便局長協会」様から「車イス搭載用福祉車両シエンタ」を寄贈していただきました。

寄贈された福祉車両は、車高降下機能がありスロープの角度がなだらかで介助の方が、車いす乗車の方の隣に同乗することができるなど、細やかな配慮がなされています。また、スロープをフラットに収納できる前倒れ機能が装備されており、後部座席のスペースが有効に使えます。

寄贈された新車両は、ショートステイの送迎、入居者の通院などで使用させていただきます。職員一同これからもより一層安全運転を心がけ、大切に使用していきます。

寄贈頂いた一般財団法人中国地方郵便局長協会の皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。



## つばめマーケットオープン！

毎日年長児がコツコツと編んでいた毛糸のマフラー。大好きなおうちの人にプレゼント。

誰かのために作るってとてもいい気持ち。

その体験から「小さい子たちにも作ってあげたい」と、毛糸のシュシュやペンダント、画用紙や折り紙、リボンなどいろいろな素材を使った子どもたちのアイデアたっぷりの品物がたくさんできあがりました。看板や、招待状も子ども達からの発案。

当日は「いらっしやいませ」「サービスもありますよ！」と大きな声が響く中、楽しくお買い物ことができました。



日頃から季節の行事をみんなで楽しみながらしています。

正月明けからコマ回しを始め、ひもをまくところから練習をし、いろんな技にも挑戦し、毎日友達と楽しみながら取り組んできました。2月14日にはコマ回し大会を開催し、小さいクラスの子も達も応援に参加してくれて、大盛り上がるの大会でした。

また3月のひな祭りに向けて年長児がお雛様の飾りつけもしました。他のクラスもお雛様を見ながら、各年齢でいろんなお雛様を作ります。ひな壇には色々なお雛様が飾られることでしょう。



# グループホームおちあい



グループホームおちあいの2月の恒例行事といえば節分です。毎年大盛り上がりの行事ですが、今年も職員が扮する鬼に皆さん一生懸命に豆をぶつけていました。「鬼は外～」のかけ声で悪いものを外に追い出し、「福は内～」と更に大きな声で福を呼び込みました。豆まきの後は「今年1年健康で元気に過ごせるように」と願いを込めて縁起の良いものを食べ、新しい季節の訪れを喜びました。今年もたくさんの福がやってきますように。



## 特別養護老人ホームゆうらく

ゆうらくでは季節ごとの行事やお誕生日などのお祝いの時に、栄養科のシェフたちがユニットに出向いて腕を振ります。

その際、一番人気は何と言ってもお寿司！！握り寿司やちらし寿司、節分の時は恵方巻きなど今年もいろいろなお寿司がユニットの行事を彩りました。お寿司になると普段以上に皆さんたくさん召し上がっておられます。目の前で直接握っている様子を見て楽しみ、それを食べて楽しみ、食べることの楽しさや喜びを感じてもらえて、とてもうれしく思っています。



## 除雪機助成

公益財団法人 中央競馬馬主社会福祉財団様の助成金で除雪機を 12月9日に購入しました。

施設の利用者、職員の負担軽減に役立っています。



デイサービス  
センター  
しあわせ



しあわせに鬼が来ました！  
みんなで鬼退治

HELLO



お金釣り。  
みんな真剣です。



こんなに釣れました。  
これが本物だったら  
いいのにな。

# フラワーボランティア

「施設」の暮らしに、身近な所で四季を感じてもらいたい！との想いで、ゆうらく開設以来23年間、活動を続けていただいている赤十字奉仕団フラワーボランティアの牽引者でもあった秦 和子・野口 昭子の両氏が、その活動にピリオドを打たれることとなりました。

入居者は楽しみに、訪問者は感嘆し、職員は襟を正し、特別ではなくごく自然の野に咲く花や自分たちの庭に咲く花が、これほどまでに人々に感動を与えることに驚きと感動を覚えたことを思い出します。

端境期の花の調達、日程の調整等々、そのご苦勞は計り知れないものがあったと思います。

後進に道を譲る・・・とのことではありましたが、これからもこの活動が継続・発展することを願ひし、これまでの両氏の活動に対し、心より御礼申し上げます。

併せて、バトンを受けられたボランティアの皆様方は、新しいフラワーボランティアの「花」を目指し、皆様方も楽しみながら、この活動の継続をお願いいたします。



## いくらの郷

厚生労働省の事務次官、保険局長など、そうそうたるお方が視察に来られました。若者支援は喫緊の課題で、それぞれの立場で出来ることを頑張らなければなりません。東京から雪深いいくらの郷までようこそお越しいただきました。スタッフ一同これを励みとして又、今年も頑張っていくらと随分と励みになりました。

年末にはしめ縄づくりをしました。「縄をなう」にはちょっとしたコツが必要です。言葉で説明するよりやってみるのが近道です。また特別養護老人ホームゆうらくの障子の張替えもしました。これはいくらの郷での活動からのステップアップです。いろいろな人に触れること、いろいろなことを体験すること、物を作ること、人の為に何かをすること、すべてが自信となり自尊感情が自立を促すのです。



### 編集後記

春は、別れと出会いが同時にやってくる季節です。新しい出会いや発見に期待して、法勝寺土手と一式飾り、町内の桜の名所を巡りながら毎年思うのですが、桜を見ているのか人を見ているのかと思う程の賑わいで、観光客は全国、海外から来られているのだと人々の話声から伺えます。桜だけではなく、パワースポットも点在する南部町。赤猪神社(再生、復活)や母塚山(イザナミノミコトの塚は、出雲大社・大山と富士山との間一直線上の北緯35度22分にあり、春分と秋分の日にこのラインに沿って太陽が動く神秘的なレイラインに位置します。そんな南部町から元気をもらい、そこに住み、働かせてもらえる幸せは素晴らしいことです。